

# 常任委員会

第2号議案・宮城県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び宮城県市町村職員退職手当組合規約の変更についてから第4号議案・宮城県市町村等非常勤職員公務災害補償等審査会を共同設置規約の変更について、第6号議案・白石市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例から第13号議案・白石市社会教育委員の設置に関する条例の一部を改正する条例及び議提第1号・奥州白石温麺振興条例までの計12議案について、定例会2日目（2月18日）の本会議で質疑が行われた後、所管の常任委員会に審査が付託されました。

審査の中で議論されたおもな内容は次のとおりです。

## 建設産業常任委員会

- 委員長 志村 新一郎
  - 副委員長 大野 栄光
  - 委員 澁谷 政義・菅野 恭子
  - 保科 惣一郎・大町 栄信
- ◎議提第1号 奥州白石温麺振興条例

〔質疑〕温麺は白石の名産として定着・普及しているが、なぜ条例化しなければならぬのか。

〔答弁〕白石温麺の長い歴史の中で、現在「うーめん体操」が本市の子どもたちの間で広まってきている。温麺業界もこれまで努力してきた中で、今回条例を制定することにより、市の役割、事業者の役割、

市民の協力を明文化する事が必要なのではないかと判断するとともに、温麺の日を明確にすることにより、市全体で地場産品である温麺を盛り上げていけるのではないかと考え、今回提案したものである。

〔質疑〕白石の地場産品が多数ある中、温麺に絞り込んだ理由は何か。

〔答弁〕奥州白石温麺協同組合の設立が大正6年と組合として長い歴史があり、温麺を提供する飲食店も18店舗ある。本市の雇用を守っているうえに、温麺業界は裾野が広い基幹産業であるという大きな位置づけから、今回は地場産品の一つである温麺にスポットをあてて提案したものである。

〔質疑〕温麺に限らず食べ物のおいしさが生命線であるが、おいしさを追及するには何が必要であると考えなのか。

〔答弁〕本条例を制定することにより、さらに業界としても研究を行い、より良い品質のおいしい温麺ができれば

ていくだろうとの期待感を抱かせる業界の熱い思いも意見交換時に感じている。

今後とも市民、業界、行政が一体となり、温麺をさらにおいしいもの、確固たるものにしていきたい。

〔質疑〕温麺の品質を守っていく事を条例の一文とする考えはなかったのか。

〔答弁〕平成24年11月に今までなかった温麺の規格が温麺業界により定義づけられ、今回の条例制定により、業界からも一層力を入れて行きたいという声もあり、品質面もこれまで以上に保証されたものとなっていくと思う。



みやぎ県南・春の観光キャンペーンの様子（仙台駅）



4月7日の「白石温麺の日」出陣式の様子